

廃漁網を循環利用

日本道路
花王舗装材で脱炭素に貢献

日本道路と花王による廃漁網リサイクルプロジェクトが本格実装した。廃棄処分していたプラスチック素材の漁網を原料の一部に使い、アスファルト舗装材として開発。試験施工で、二酸化炭素（CO₂）排出量を削減し、高い耐久性を満たしていることを確認し、

ルト混合物として道路舗装業界初の取り組みとなり、今後の活用が注目される。2023年に試験導入した県道10号塩釜巨理線（延長11.5km）で1年にわたる品質や施工性、わだち掘れなどの仕上がりを検証した結果、車輪の通過回数を表す動的安定度（DS）は目標（DS3000）を大きく上回る5759回、1

宮城県石巻市にある木下製網石巻工場の舗装工事（敷地面積965・4平方m）で導入した。環境に配慮した付加価値の高いアスファ

ト当たりのCO₂排出量は密粒度アスコン（改質Ⅱ型）と比較し、約18%削減した。本格導入した木下製網石巻



リサイクルした廃漁網の舗装材で施工



使用済み漁網

工場の舗装工事には、アス合材約121トを使用。このうち廃漁網約65キが舗装に含まれる。

水産業が盛んな宮城県石巻市には、年間500〜600トの使用済みPET（ポリエチレンテレフタレート）製漁網が発生している。両社は地域課題に着目し、環境リサイクル率向上

に取り組む「Re:iism（リズム）」のコンソーシアムに参画。使用済みの漁網をペレット化したものを花王がPETリサイクル技術で高耐久アスファルト改質剤を開発し、日本道路が再生アスファルト混合物を製造・施工し、宮城県のバツクアップで実証実験に取り組んできた。25年4月に

宮城県グリーン製品に日本道路が申請した「再生漁網PETアスファルト混合物」が認定され、販売の普及を図る。日本道路東北支店の金子健郎営業部長は「廃棄物の循環利用を目指し、東北から道路の脱炭素につながるPETアスコンを広げたい」と語った。

